

With コロナ時代を生き抜く

経済活動の再開や学校教育の充実、新型コロナウイルス第二波の抑制を両立させるためには、一人一人が「3密」を避けるなどの新しい生活様式を意識し、徹底するしかありません。不安を解消し安心して生活できるように、新しい沼田を皆さんと一緒に作っていききたいと思えます。

全小中学校に次亜塩素酸水生成装置を設置

4月に緊急事態宣言が発令され、市内の小中学校も休校を余儀なくされましたが、6月からは分散登校、中旬からは一斉に通えるようになりました。環境衛生を良好に保てるように、市は、全小中学校に除菌に効果があるといわれる次亜塩素酸水の生成装置を設置。塩酸と塩化ナトリウム補助液を電気分解することで得られる水溶液で、低コストで大量に生成でき、学校は手を触れる箇所の消毒などに役立てています。

薄根小学校（星野耕史校長）では、登校前と授業中、放課後の3回、教諭やスクール・サポート・スタッフ

らが校内を回り、1日に約20リットルの次亜塩素酸水と消毒用エタノールを併用して、玄関や扉、遊具などを除菌しています。星野校長自らも毎日消毒液を持って巡回し、「全教室の扉や蛇口など消毒をしながら児童を見守っている」と話し、「一人一人が予防に努めると同時に、こういう状況だからこそ友達との関係づくりを大切にしたい」と呼び掛けています。

併せて、同校は登校時と給食前に検温を実施、熱中症を考慮しながらマスク着用の励行、手洗い場などは密集を避けるよう立ち位置に間隔を空けてテープで表示するなどの工夫もしています。学習面では、国の2023年度計

画の前倒しに併せ、今年度中に児童生徒1人に1台ずつ学習者用端末を配備することを決めています。今後、各教室でICT（情報通信技術）を活用した授業に利用するほか、第二波の到来に備えて自宅で学習できる体制を整えていきます。

図書消毒機を導入

一方、市立図書館は書籍の消毒機を導入。機械の中に本を入れると紫外線レーザーが当たり、ウイルスの殺菌やほこり取りなどが30秒で完了します。導入前は数日間、本を空気に触れさせることで衛生状態を保っていました。消毒機を活用することで貸し出すまでのサイクルが早くなり、たくさん本を提供することができるようになりました。

それぞれの本棚の足元には2メートル間隔でガムテープを貼って「3密」を回避する環境をつくり、貸し出しと返却窓口も同様な対応をしています。本を積んだ専用車が市内を

巡回する「移動図書館」も6月から再開。車に乗る人数を2人に制限するなど工夫しながら、各地域へ本を届けています。

衛生管理を徹底したフルーツ狩り

市内にはさまざまな観光果樹園が点在し、今が旬のサクランボから始まり、順次ブルーベリー、ブドウ、リンゴなどオールシーズン楽しめます。安心してフルーツ狩りができるように衛生管理を徹底し、スタッフのマスク着用や消毒液の設置をはじめ、試食品は小分け袋や食べられる量での提供、1度でも手に触れた果実は必ず食べてもらうように促す、種などのゴミは他の人が触れないように配慮するなどに努めています。安全対策が一目で分かるポスターも作成。各農園や観光案内所などへ掲示し、PRを行っています。

県の宿泊支援もPR

その他の経済対策としては、市の国の持続化給付金対象外で減収率30%以上50%未満の事業者へ10万円を支給。県が観光需要回復策として打ち出した県内宿泊施設の宿泊料金から五千円を割り引く「泊まって！応援キャンペーン」には、老神温泉や玉原のペンションなど約30施設が参加。市や観光協会なども共に協力し、宿泊施設の需要回復を図っています。



6月中旬から一斉登校になり、教室に児童が集いました。喜び合いながらマスク姿で勉強に励みます



消毒機で書籍を殺菌



足元に2メートル間隔でテープを貼り、立ち位置を示しています



給食の前には一人一人検温し、発熱がないかを確認



次亜塩素酸水で手すりを消毒する星野校長

友達と楽しく、勉強も頑張る

学校が始まり、友達に会えて嬉しいです。手洗い・うがいと出掛けるときはマスク着用を心掛けてきたので、続けていきます。残りの学校生活は、遅れた分の勉強を取り戻すことに力を入れ、友達との時間を大切にしていきたいです



片野光琉さん（薄根小6年）

当園の安心対策
お客さまに安心してご利用いただくため従業員一同対策を実施しています

- マスク、手袋を着用して接客します
- 毎日体温測定を行い健康管理をしています
- 園内のテーブル等の消毒を行っています
- 園内での安心確保に努めています

発熱や咳などの症状があり、体調がすぐれない方はご来園をお控えいただきますようお願い申し上げます。皆さまのご協力をお願いします。

安心してフルーツ狩りを楽しんでもらえるように作成したポスター